

ぐるめ散歩

そば

えどとう 江戸藤

江戸藤はそばやうどんを毎日自家製麺し、季節に合わせた50種以上の豊富なメニューを提供している。

横浜の老舗そば店で修行した店主の笠原栄吾さん(82)が昭和53年にのれんを分けてもらって開店。そば粉は実の中心に近い部分を使うほか、だし汁に使う削り節、天ぷら油、しょう油など材料を吟味している。そばとうどんはその日



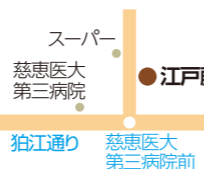
(左から) 笠原栄吾さん、君子さん、栄一さん



の気候に合わせて粉や水の量、練り方などを工夫して自家製麺している。

揚げたてのエビと野菜の天ぷらが付いた天ざる、合鴨の肉を使い温かいつゆに冷たいそばをつけて食べるかもせいろ、自家製の和風カレーを使ったカレー

☎3488-5467 和泉本町4-10-6 営業=午前11時~午後3時/5時~7時30分 日曜・祝日休み



自家製麺のそばとうどん 独自のメニューも豊富

南ばんなどが人気。

平成24年にリニューアルした4人掛けのテーブル5卓の店は妻の君子さん(78)、息子の栄一さん(55)とパートで切り盛りしている。栄吾さんたちは「幅広い年代の人を楽しんでもらうため、独自で工夫したオリジナルのメニューを増やすほか、若い人にも満足してもらえるよう量も多めにしています」と話している。

おすすめMENU

- ①並天ざる¥1,280 / ②山菜入りかもせいろ¥1,050 / かもせいろ¥990 / カレー南ばん¥890 / ざる¥700 / かもだしの玉子とび¥1,090 / 並天ぷらそば¥1,480 / 麻婆せいろ¥990 / 並なべ焼きうどん¥1,350 / 玉子丼¥800 (税込・丸中数字は写真参照)

狛江駅の周辺が絵手紙尽くしに 巨大絵手紙やマンホールを新調

市制施行50周年を記念して狛江駅の周辺が「絵手紙発祥の地-狛江」にふさわしく、絵手紙尽くしに一新される。

北口ロータリーにある高さ4m、幅3mの巨大絵手紙が新しい絵に替わる。現在の中国の騎馬に乗った女性の置物の絵は市内在住の絵手紙作家小池邦夫さんが描き、平成22年から展示されている。新しい絵は同じく小池さんが多摩川など狛江にちなんだ題材で描いた。

さらに、北口ロータリーから南口ロータリーにかけて設置されている15カ所のマンホールの蓋も、小池さんの絵に変更される。新しい蓋は15種類で、狛江駅の絵に「都心に近く住みよいまち」という文字、猫の絵に「ヘタでいいヘタがいい」という文字が配されたものなどがある。

市では「駅構内の絵手紙ギャラリーに加え、駅周辺には市内の名所などを描いた絵手紙のパネルなどもあり、市民だけでなく、市外から訪れる人にもより楽しんでもらえるようになった」と話している。

ひらがね 絵手紙の輪



現在の巨大絵手紙



30年前のタイムカプセル 狛江青年会議所が開封式

30年前のタイムカプセルの開封式が7月25日狛江市役所市民ひろばで行われた。

狛江青年会議所が平成2年に10周年記念事業として行ったもので、市内の小・中学生の手紙などをグラスファイバー製の球形の箱に収めて30年間保存してきた。

開封式では、現理事長の秋元慈一さん、当時の理事長の高橋清治さん、当時の実行委員長の花忠彦さんの3人がカプセルの蓋を開けた。中からは約2,700通の子どもの手紙のほか、当時の新聞や雑誌、市の資料、市制施行20周年のフラッグなどが取り出され、訪れた人たちは懐かしそうに

見入っていた。

手紙は書いた子に郵送したが、転居などで届かない場合は同会へEメール(Mkomaejctimecapsule@gmail.com)で連絡するよう呼びかけている。

同会ではさらに創立40周年の記念に「未来への手紙」として小学生から手紙を募集し、タイムカプセルで20年間保存することを計画している。



タイムカプセルを開封した(左から)高橋さん、秋元さん、花忠彦さん

市民が台風19号の記録集 猪方・駒井町の浸水体験

昨年10月12日田の台風19号による浸水を受けた住民らで組織する「猪方・駒井町住民有志」(連絡先・本多一公さん)が、浸水被害の記録集『安全・安心な猪江をめざして-台風19号による猪方・駒井町の浸水被害などの記録』をまとめた。

同会は、猪方と駒井町で住宅の浸水被害を受けた住民を中心に昨年10月に結成した。市に住民から出された浸水被害に関する質問や意見の回答を求めたのはじめ、下水道施設の見学会や東京都豪雨対策基本方針の勉強会などを行ってきた。

また、これまでの水害の記録がほとんど残っていないため、編集委員会を作って自分たちの体験を記録して、水害への対応と復旧に関するノウハウを蓄積・継承するとともに、多くの市民に防災意識を高めてもらおうと記録集の発行を企画した。市民による記録集は少なく、自分たちで内容や構成を考えて編集したという。

記録集はA4判本文29頁で、本多さん、猪方町会長の岩間正隆さんら14人が執筆した。

内容は、浸水被害とその復旧・再建について、被災者の体験談を中心にまとめたのが特色。当日の浸水と台風19号の通過時の状況をはじめ、翌日からの復旧にどのように対応したかを「片付け、排水、清掃、乾燥」「車・エアコン室外機等」「住宅の再建」「時系列体験記録」などの

項目に分けて掲載している。

当日の記録では、浸水状況の時間ごとの詳細な記録をはじめ家の周辺や避難所までの移動と避難所の様子、第二中学校の避難所の状況などが紹介され当時の緊迫した状況が伝わってくる。被災翌日からの復旧作業では、床下の水の排水・乾燥など被災後の作業について詳しく紹介されている。また、屋内の排水に風呂水ポンプが役立つ、罹災証明用の被害状況の写真的必要性など、すぐに役立つ防災情報も記されている。

記録集は300部印刷、関係者などに配布したほか、市内の図書館、地域センターの図書室に置いてある。

問い合わせ☎090-9100-8396本多さん。



記録集を手にする岩間さん(左)と本多さん

狛江フェスティバル オンラインで実施

地域の活性化をめざして毎年夏に催される狛江フェスティバルは、ことしは新型コロナウイルス感染症感染予防を考慮して会場を使った開催を中止し、オンラインを活用したイベントを実施することになった。

イベントは専用ホームページで実施し、支援企画として食べ物やビール、グッズなどを6日回までに注文、12日田または13日田にデリ

バリーやテイクアウトする。また、来年のフェスティバルで使えるチケットも受け付ける。ステージ企画はyoutubeでキッズダンスや弾き語りなどの映像を配信、特別企画としてSNSを活用しハッシュタグをつけてフェスティバルの感想などを送る。また、投稿した人には抽選で景品が贈られる。

実行委員会では「会場を使わなくても楽しめる企画としてオンラインでの実施になった。初めての試みだが、多くの人に自宅で楽しんでほしい」と話している。

実行委員会では当日の配達などを行うボランティアを募集している。問い合わせ☎080-4132-2633繁平さん。

連携して女性の命救う 4人に消防総監感謝状

元和泉2丁目のスポーツ施設でテニスのプレー中に心肺停止になった女性の救急活動を行った4人に東京消防庁消防総監から感謝状が贈られることになり、8月13日(木)に狛江消防署で贈呈式が催された。

表彰されたのは稲城市の主婦清田知津子さん、川崎市の主婦森田早知子さん、川崎市の高校2年生山口莉里さん、川崎市の中学2年生段中洸星さん。4人は倒れた女性に対しAED装着と使用、人工呼吸、胸骨圧迫心マッサージなどを協力して行った。狛江消防署員が到着した時、女性は既に蘇生しており、こうしたケースは



感謝状を贈られた(左から)清田さん、森田さん、山口さん、段中さん

珍しいと驚いたという。

吉田英生署長から感謝状を手渡された4人は「最初は驚いたけど、救命講習を受けていたおかげで冷静になれた」「長年の友人が倒れ、必死でした」「学校で受けた救命講習の経験が生きました」などと話していた。

新型コロナと公園利用 農大がアンケート調査

東京農業大学地域環境科学部地域デザイン研究室が

狛江市における新型コロナウイルス感染症による自粛期間前と期間中の公園利用の状況を把握することを目的としたアンケート調査を実施する。

公園利用のネットワークに基づく新たな活用に関する研究の一環で、対象は狛江市内に住んでいる人。

アンケートはホームページ(QRコード参照)で回答する形式で所要時間は10分程度。調査期間は1日囚から30日囚。回答した内容は同研究室の研究目的に限って使用する。

同研究室では「新型コロナウイルス感染症による市民生活や行動への影響を調べるため、多くの人に回答してほしい」と協力を呼びかけている。

問い合わせは☎5477-2677東京農業大学地域環境科学部地域デザイン研究室 入江さん。

